

静岡大学は、1949年(昭和24)の創立以来、さまざまな研究や教育に取り組み、多くの学術資料を蓄積してきました。これらの資料は、本学における教育・研究の歴史を物語るものであると同時に、先人から譲り受けた知恵をもとにして新たな活動を展開していく原点にもなります。

静岡大学キャンパスミュージアムは、こうした本学の知的資源を受け継ぎ、それらをもとにさらに発展させる場です。また、本学が生み出した最新の研究成果を地域に還元し、社会に貢献するための機関でもあります。

静岡大学のこれまでの教育・研究の成果を、そしてこれからの展望を、ぜひご自分の目で確かめてみてください。

沿革

静岡大学の博物館構想は、1988年に理学部から提案された附属「科学博物館」に遡る。しかし、当時は大学博物館の意義とその必要性をまだ十分に理解されず実現には至らなかった。

その後、1999年の創立50周年記念事業の柱として、本格的な大学博物館構想が検討され、1996年2月の評議会で「静岡大学キャンパスミュージアム構想」が承認された。これにより「キャンパスミュージアム推進委員会」が発足し、「静岡大学キャンパスミュージアム総合博物館の設置」案が文部省へ提出された。

この総合博物館計画では、客員部門を含む「博物館情報学研究系(情報システム・情報メディア)」と「博物館資源研究系(保存科学・分析科学)」という2部門で構成され、約2,500㎡の建物を想定していた。「キャンパスミュージアム」としたのは、学内の学術資料を総合的に収集、整理、保存、公開する中央博物館を拠点に、学内外の諸施設とのネットワーク化を図り、大学全体をミュージアムとして機能させるという発想からだった。

準備の一環として、学内の樹木に名札を付けたり、学内古墳の発掘・復元を行うなど、キャンパスを再開発して地域住民に開放するための環境整備にも取り組んだ。また、「キャンパスミュージアム推進委員会」の下に「キャンパスミュージアム設立作業部会」が作られ、学内資料の調査を行った。

1998年11月には、全学支援のもとに、理学部B棟ピットの改装による資料庫(336㎡)が完成し、整理した標本や資料を保管するための施設となった。中央博物館建設までの暫定的な活動拠点として、1999年7月21日、創立50周年にあわせて暫定公開されるに至った。

ご案内

- 開館日 通常授業開講日の毎週火・木曜日
※静大祭開催中は上記以外も開館します。
- 開館時間 12:00~15:00
- 入場料 無料
- 問い合わせ 静岡大学学術情報部研究協力課研究支援係
☎054-238-4264 FAX054-238-4312
http://www.shizuoka.ac.jp/c_museum/



アクセス



JR静岡駅北口しずてつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。

※静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。



静岡大学 キャンパスミュージアム

展示のご案内



Campus Museum of
Shizuoka University

考古ゾーン

発掘された静岡の歴史
Archaeology in Shizuoka

地中に埋もれた遺跡は、発掘調査によってその姿を現し、現在の私たちにさまざまな過去を語りだします。静岡大学考古学研究室では、60年以上にわたって静岡県内の遺跡の調査を進めてきました。その内容は、縄文時代の貝塚や弥生時代の畑跡、静大構内の古墳など多岐にわたります。その成果を時代を追って紹介します。

❖Sub Contents

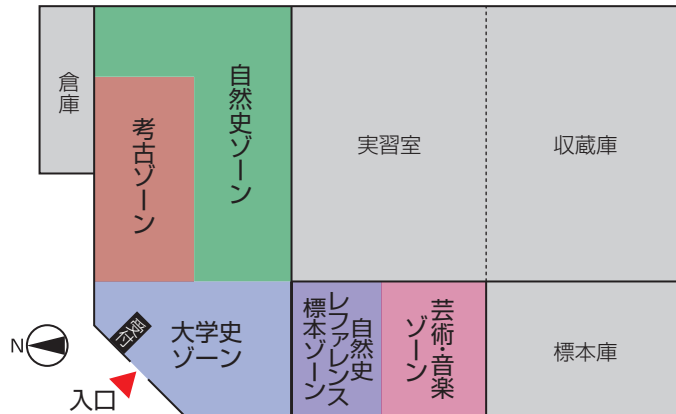
- ▷自然と調和する生活——縄文時代
- ▷静岡の農耕起源を探る——弥生時代
- ▷駿河における古墳の出現
- ▷古墳の終末と国家形成期の駿河
- ▷静大考古学の歩み



▲静岡市手越向山遺跡の発掘調査

静岡市栗原遺跡の駝面線刻土器(古墳時代前期)▶

静岡大学キャンパスミュージアム平面図(理学部B棟1階)



自然史ゾーン

自然の記述と体系化
Natural History

人類は太古から森羅万象に深い関心を持ち、これを記述してきました。自然を観察してとらえた発見は、記述によって後世に伝えられ、人類の知的財産として蓄積してゆきます。今ある高度な科学も、その基礎は自然の記述にあります。人類は未来永劫にわたって自然の記述を継続しますが、この蓄積から自然の体系を明らかにする学問が自然史です。

❖Sub Contents

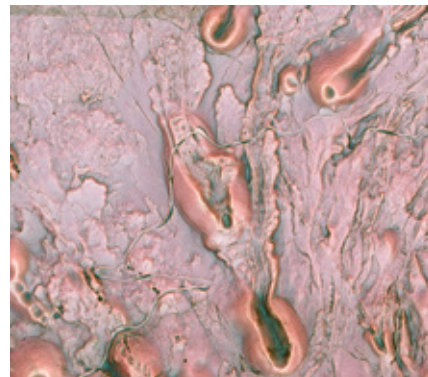
- ▷地球の歴史と静岡の地質
- ▷富士山の自然
- ▷静岡キャンパスの自然
- ▷生物の種多様性



準絶滅危惧種・タシロラン



自然観察園のオストラコーダ
Dolerocypris ikeyai



富士山麓(富士スバルライン機敷山周辺)の赤色立体地図

自然史レファレンス標本ゾーン

鉱物・岩石・化石の標本展示
Reference Specimens of Natural History

自然史は、動物、植物、鉱物、岩石などを体系的に分類して、それらの地域的特徴を調べ自然の成り立ちを見ようとしています。試料標本を手にとることにより、私たちの自然を見る目を育てることができます。この展示室では、特に代表的な鉱物、岩石、化石などの標本を展示してあります。



芸術・音楽ゾーン

アートと静岡大学
Art and Shizuoka University

アートの語源は、人間のなす「技」にあります。その結果としての芸術作品や、音楽作品の媒介となる楽器は、単なるモノではありません。いま、そこに存在するまでに関わった人々の軌跡が刻まれているのです。ここでは、静岡大学が身近な地域からアジアを射程に推進してきたアートの創作・表現・交流活動の一端を紹介します。

❖Sub Contents

- ▷美術による国際交流
- ▷茶歌&ザ・茶歌プロジェクト
- ▷ガムラン



クモン Kemong
繰り返しの節目を音で示す

ガンサ・カンティル Gangusa kantil
青銅の鍵盤と竹の共鳴管を持つ鉄琴

❖ガムランとは

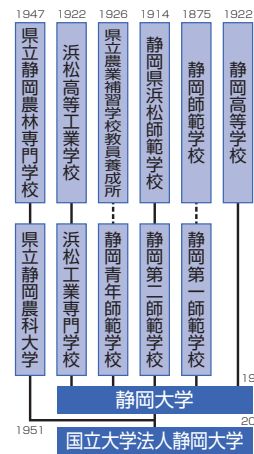
ガムランとは、インドネシアからマレーシアに分布する青銅器製打楽器を中心とする楽器群およびその演奏をさします。木彫り、鍛冶、楽器作りの職人が半年がかりで手作ります。各楽器のチューニングが微妙にずらして設計されることで、独特のうなりが生じます。

大学史ゾーン

静岡大学のあゆみ
History of Shizuoka University

静岡大学は、戦後の教育改革の理念の下、旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松工業専門学校の5校を統合して、1949年(昭和24)に発足しました。

その後、県立静岡農科大学の移管、静岡・浜松両キャンパスへの統合移転、学部や教養部等の改組・拡充が図られ、今では6学部と大学院、研究所、その他の諸施設を要する全国でも有数の総合大学に成長しました。



❖第五福竜丸事件と静岡大学

第五福竜丸事件とは、1954年(昭和29)、焼津港所属のマグロ漁船「第五福竜丸」が、太平洋上のビキニ環礁で、アメリカの水爆事件によって発生した多量の放射性降下物(「死の灰」)をあげた事件です。静岡大学は、この「死の灰」の検査を担当し、その分析が高い評価を受けました。その結果、理学部に放射性物質を研究する放射科学研究施設ができました。



静岡大学が分析した第五福竜丸事件の「死の灰」